

部会だより

組合せ理論部会

当部会では、月に1回会合を開いて、

- (1) 文献の紹介
- (2) 実際問題の紹介
- (3) 総合報告
- (4) 研究発表

などを行ってきた。部会員は17名(主査 伊理正夫(東大), 幹事 古林 隆(埼大))で、昨年度は毎回10名前後の出席があったが、今年度はやや少ないようである。

発表の順序は特に定めていないが、研究発表のように自発的に申し出のあったものを優先し、空きそうなときは、“ドロナワ式”に、文献の紹介をおこなっている。また、民間会社の方には、実際問題を紹介してもらっているが、興味深いものが多く、1回で終わらず、次回にもちこしたこともある。今まではだいたい1回2件の発表があったが、最近は多少“種切れ”のようである。

いままで取りあげられた主な話題をあげておこう。

- (1) 文献の紹介

○単行本(著者名と発行年をあげておく)

Ryser (1963), Beckenbach (1964),
Hall (1967), Eisen (1969), Wells (1971).

○論文(著者名と内容)

Rota (Möbius 関数など),
Held and Karp (巡回セールスマン問題),
増山 (実験計画).

- (2) 実際問題の紹介

鉄鋼業, 石油化学, 電力, 航空・鉄道などにおける組合せ問題が紹介され, 解法などについて討論を行なった。

- (3) 総合報告

Matroid, Clustering など最近注目されている分野についての総合報告が行なわれた。

- (4) 研究発表

グラフの同型性の判定,
Minimum spanning tree の作り方,
ネットワークにおける同時フロー,
シソーラスの作成.

一昨年の最初の会合で, 組合せ理論関係の用語を整理するという話もあったが, 現在までほとんど作業は進んでいない。

支部だより

関西支部

支部の活動状況

◎OR研究会が発足 関西支部OR研究会が本年度から発足し, 2~3ヵ月おきに開催されている。研究成果の発表・討論と啓蒙普及・一般教養のための講演, の両方の内容を含んだ形で行なっている。当支部は地域的にははなはだ細長く, また研究の“眼”も各所に散在しているので, これらの“点”を利用して会員と最寄りの研究機関との接触を密にしたいと考えている。そこで, この研究会の運営・企画はプロデューサー制をとり, 各研究機関が中心になって順番に行なっている。すでに次の2回(12月

末現在)が開催された。

・第1回(10/21):担当 阪大・西田俊夫教授

テーマ「信頼性」 於 電子総研(通産)

- (1) 信頼性の予測
塩見 弘氏(電子総研)
- (2) Intermittently used System の信頼性
高松俊朗氏(阪大)
- (3) システムの Mission Availability
児玉正憲氏(阪大)

・第2回(12/7):担当 京大・三根 久教授

テーマ「数理計画法における最近の話題」

於 京都大学数理工学教室

- (1) 大規模数理計画法の最近の発展

中川 勝氏 (住金)

(2) 整数計画法について

茨木俊秀氏 (京大)

(3) 分枝限定法によるスケジューリング

大瀬 洋氏 (京織大)

いずれもたいへん興味深い内容のもので有意義であったが、出席者は多い場合で3~40名程度、もっと多くの会員に出席してもらえるような、活発な会にするべくその方法を模索している。なお、今回は「生産管理システム」をテーマにして2~3月頃に開催を予定している。また多階層システム理論の研究会についても現在企画中である。

◎MS輪読会が発足 TIMS学会誌「Management Science」に発表されたおもしろそうな論文を選んで毎月1回読み合うという会が、関西情報センターの協力で本年度から発足した。大阪府大・森健一先生を中心に毎月第4水曜日の夜、関西情報センターで、1回に平均3編位の論文が読まれている。最近の研究の方向を知るよい機会であろう。

◎支部の規約が制定 今迄当支部には、運営のための規約が作られていなかった。8月21日の支部総会において初めて支部規約が制定された。規約の要点は次のとおりである。

- ・支部役員を明確にしたこと：支部役員は支部長、副支部長(1)、運営委員(15)、監事(2)で構成される。
- ・役員の選出方法を定めたこと：運営委員・監事は総会で選出、支(副)部長はその中から互選される。
- ・支部在住本部理事は運営委員にならないこと。
- ・運営委員の補助役として幹事を委嘱すること。
- ・役員の任務、任期(2年)を明確にしたこと：支部の活動企画・運営は運営委員会が行なう。

なお、新規約のもとでの役員は本誌第15巻3号(9月)に掲載されているとおりである。

支部活動はどうあるべきなのか？

支部の雑務を担当している者として、会員にどのような形でサービスを提供すればよいのかということに日頃頭を悩ませている。会員が気軽に出席できて、いろいろな問題を議論したり、情報交換ができたり、互いに刺激の受けられるような有意義な会合が少なくとも月に1回程度はもちたいと思っている。現在行なっている定期型(非定期)OR研究会をまず月例研究会程度に持って行けることが望ましい。このようなことを行なうためには、オペレーショナルなレベルで二つのネックがある。一つは気軽に使えようとする交通至便な会場(タマリ場)が常時確保できないこと、もう一つは会員間の連絡そのほかの事務処理がスムーズに行なえるような体制が整えられないこと——いずれも活動資金の面に関連するのかもしれないが——であろう。ただ、地方在住の会員へのサービスを地方支部だけの問題として考えるべきなのであろうかといった疑問もでてくる。中部支部の真鍋氏も指摘しているように、たとえば、本部レベルで行なっている月例講演会のうち何回かを地方で開催してくれたらなどと思うのはたいへん虫がいいことなのだろうか。

どなたかおられますか？

関西支部は会員約200名、賛助会員約15社と支部中最多数を誇っている。支部の活動もそれに応じた活発なものにしたいと思う。このためのよいアイデアをお持ちの方、積極的に協力してくださる方、こんなことでなら協力してやってよいという方……そんな方はおられますか？ 関西地区にも活動的なORグループ、あるいは研究会ができればよいと思っている。(青沼竜雄)



国際会議のおしらせ

① 第1回日米コンピュータ会議開催

情報処理学会とAFIPS(アメリカ情報処理学会連合体)の共催による第1回日米コンピュータ会議が、本年10月東京において下記により開催されま

す。当学会もこの会議の開催に協賛することに決定しました。

つきましては、当学会の会員におかれても、積極的に参加されるようご案内申し上げます。

なお、同会議と併行して、「コンピュータの進歩と未来像」を示す展示会も開催されます。